

フィリピン・ボランティア・スタディ・ツアー

新型インフルエンザの影響で延期になっていました LI コース I・II 年生を対象にした第4回目の「フィリピン VST」は、平成 22 年 1 月 7 日（木）～16 日（土）実施されました。参加生徒 19 名・引率 3 名（亀谷先生・斎藤先生・Sr. 渡辺）は好天に恵まれ、予定していた活動をすべてこなし、無事帰国しました。現地での貴重な体験を紹介します。

■私は日本とフィリピンの人との感性の違いを知ると共に、助けを求めている人々のために自分ができることを考えたいと思い、この研修に参加しました。

フィリピンは、私が想像していた以上に貧富の差が著しい国でした。例えば、マニラ市中心部は高層ビルが立ち並び、仙台とは比べものにならないほどの大都市なのに、中心部から車で 15 分ほど走ると、景色は一変し、目の前に広がるのはスラム街でした。そしてまた 15 分ほど走ると高級住宅街。私のホストファミリーの家もその中にあり、お手伝いの人が二人、運転手一人の超高級家庭でした。ホストファミリーにはいろいろな所へ連れて行ってもらいました。その中で忘れられないのが「ハロハロ」です。本場フィリピンで食べた「ハロハロ」はとてもおいしく、感激しました。

その一方で、アエタ族のような少数民族を訪ね、テレビや冷蔵庫、電話もない生活をしている人を目の前にし、そこに住む子供たちの目の輝きに驚きました。そして物の豊かさだけが本当の幸せに繋がるとは限らないということを痛感しました。

世界中には、日本より貧しい国が数えきれないほどあります。そういう国の子どもたちのために、私が今できることを一つずつやっていくことが大切だと思いました。エコキャップ運動を始めとする様々な募金活動に積極的に参加していきたいと思います。
(高校 I 年 2 組 早坂千明)



■この研修で心に残ったことの一つは、たくさんの人と交流できたことです。私たちの学校の姉妹校である St. Paul College Pasig の方々、ホストファミリー、Extension School の子どもたち、アエタ族の人たち…と多くの人々とお話をしました。また研修中は本当にたくさんの方々にお世話になりました。文化の異なる海外での研修は不安なこともたくさんありましたが、その方々の「無償の愛」のおかげでとても貴重な経験をすることができました。

私たちは日常生活で「ボランティア」をしたり、その感謝の気持ちを忘れず、これからも毎日の生活の中で人のことを考え、自分ができることを見つけ、実施していきたいと思います。このフィリピン研修では、人と人との絆の大切さを再確認し、心が温かくなりました。Maraming Salamat po (どうもありがとう)!

(高校 II 年 3 組 長倉由莉)



*このスタディ・ツアーが始まってから初めての 1 月実施となりましたが、フィリピンがちょうど乾季の時期でもあり、天気心配もせずに活動することができました。多くの方々からの恵みに心から感謝いたします。

(引率団長 亀谷朋広)